

令和8年度

第1回進路説明会



江戸川区立葛西第二中学校

3年	組	番
氏名		

— 目 次 —

1. 進路を考えるにあたって	2
2. ご家庭で取り組んでいただきたいこと	4
3. 進路年間計画	5
4. 中学校卒業後の進路先	
A 高等学校	6
課程、学年制と単位制	
A-1 都立高校	
A-2 私立高校	
A-3 国立高校	
B その他の学校	9
B-1 高等専門学校（高専）	
B-2 高等専修学校・各種学校	
B-3 通信制補習校（サポート校）	
B-4 特別支援学校高等部	
B-5 職業能力開発センター	
C 就職	10
5. 受験に関する基礎知識	11
6. 推薦希望者にのぞまれること	13
7. 本校の推薦受験基準	14
8. 昨年度の葛西第二中学校進学状況	15
9. 昨年度の入試状況	
◇参考資料 個別相談チェックシート	16
進路希望調査（見本）	

1. 進路を考えるにあたって

「進路」＝「進学・受験」ではありません

進路を考えるうえでまず重要なことは、自分が将来どのような人間になり、どのように生きていくかを考え、将来の見通しを立てるといことです。高校は「みんなが行くから行く」、「親が言うからなんとなく行く」というものではありません。一人ひとり違って当然です。自分自身の将来を見据えて、よく考えて結論を出してください。

進路選択について

①長期的な視点で考えよう

高校を卒業した後は進学したいのか、就職したいのか、それによって選ぶ学校も変わります。

②進路先の研究をしっかりと行おう

入学してから「やっぱり進路を変えたい」、「学校生活が合わなかった」などの理由で中途退学する人は少なくありません。このような失敗を避けるためにも、進路先の研究をしっかりとしておく必要があります。ホームページを見るだけでなく、実際に学校説明会などに参加し、自分の目で見てきてください。

③最終的な決定は自分でしよう

決定した進路へ進むのは、保護者でも先生でもありません。だからこそ、最終決定は自分の意志でしてください。ただし、保護者の方や先生のアドバイスにはしっかり耳を傾けましょう。

学習について

①授業が基本

平日5～6時間の授業を有効に使えていますか？黒板の文字を写しているだけ、「あとで覚えればいいや」と後回しにするのは、時間の無駄遣いです。「授業中に理解し、覚えること」を心がけましょう。わからないことがあったら、そのままにせず聞きましょう。また、少しでも良いので、授業で学んだことはその日のうちに復習する習慣をつけましょう。記憶が薄れた頃に勉強し直すと、何倍もの時間と労力が必要になります。

②「長くやる」よりも「集中してやる」

ただだと長い時間机に向かっているだけでも、集中していなければ時間が過ぎるだけです。どうすれば集中できるのか、効果的な息抜き方法は何か、自分自身のことを理解することが大切です。

③勉強に適した環境・雰囲気を作る

落ち着いて学習できる環境や雰囲気の中で過ごすことが大切です。図書館、塾、共育プラザなどの自習室を活用するという方法もあります。スマホやテレビなど誘惑の多い家庭では、それを断ち切るために家族の協力を得ることも大切です。

④答え合わせのあと何をするか

勉強の成果は「何時間やったか」ではなく、「力が付いたか」「同じような問題が出たときできるようになっているか」です。答え合わせをして間違えたときこそ、力を付けるチャンス！赤ペンで直すだけではなく、知識を整理し、理解し、覚えましょう。そして、もう一度やり直してみましょう。問題を解くだけでは、力は付きません。

⑤夏休みは1・2年の復習をするチャンス

「自分の苦手な分野は？」と聞かれて、具体的に答えられますか？まずは苦手分野が何か徹底的に整理し、1・2年生の復習をしましょう。2学期以降は入試問題を解いていくことになります。夏休みを有意義に過ごせるかが今後の進路決定を左右します。

生活態度・健康について

①学校生活をおろそかにしない

「遅刻・欠席をしない」「授業をしっかり受ける」「提出物の期限を守る」「委員や係、当番、部活動、行事などで自分の役割を果たす」受験勉強を言い訳にして、いい加減になるのはダメです。

②言葉遣いに注意

普段から正しい言葉を使いましょう。

「ありがとうございます」「すみませんでした」「お願いします」とっさに言えるものではありません。面接には“日常”が現れるものです。今から意識をしましょう。

③健康第一

不摂生な生活を避け、規則正しい食事や睡眠を心がけましょう。

精神面の健康も大切です。友だちとの交流、家族との交流が精神的な支えになります。

2. ご家庭で取り組んでいただきたいこと

①安らく雰囲気づくりを

進路決定という初めての体験に多かれ少なかれ子どもは不安を抱いているものです。そうした不安を取り除く意味でも、精神的な安定が不可欠です。日頃から、進路について家族が打ち解けて話し合える雰囲気づくりが大切です。

②過保護は逆効果

“3年生だから”という特別扱いは逆効果です。毎日の生活や学習こそが大切であり、「勉強さえやっていれば他は何をやっても許される」というものではありません。ご家庭でも、学校と同じように自分の役割をしっかりと果たすようご指導ください。過度に気を遣い、特別扱いすることで、逆にプレッシャーを感じ不安や苛立ちの原因になることがあります。

③しっかりとした健康管理を

十分な睡眠と食事は、毎日の生活リズムをつくるためにとても大切なことです。3年生になると夜遅くまで勉強した結果、寝坊したり、睡眠不足になったりして体調を崩しがちです。勉強の効果は、勉強時間に比例するのではなく、勉強内容に比例します。無理のない範囲で勉強し、十分な睡眠時間を確保するようご指導ください。また、食生活も体調面に大きな影響を与えますので、ご配慮ください。

④家庭で十分な話し合いを

進路決定の話し合いの第一歩は、子どもの意思を大切にすることです。もちろん保護者の方のお考えもあると思います。ですが、一方的に親の希望や期待を押しつけるのではなく、子どもが納得し、最終的には子どもが自分の意思で進路を決定するということが大切です。子どもが進路決定に至るまでの道筋を作っていけるよう、ご家庭での十分な話し合いをお願いします。

⑤子どもと一緒に情報収集・比較検討を

学校や塾におまかせというのではなく、子どもと一緒に進路研究を行ってください。高等学校では学校説明会・授業公開・体験入学・運動会・文化祭などが行われています。保護者の方も一緒に足を運ぶことで、子どもとは別の観点から学校や職場について知り、話し合いを深めることができます。実際に進学・就職する際の安心にもつながるかと思います。できるだけ早めに情報収集をし、比較検討を始めてください。早い時期に志望校が定まれば、その分だけ準備に時間をかけられます。また、例年、都立校が第一志望でも「万が一のおさえ」として私立校を併願受験する場合が多くあります。たとえ都立志望でも、必ず私立高校も数校チェックしておいてください。

3. 進路年間計画

	主な学校行事	進路関係	進路についての目標
5月	部活動保護者会(8金) 運動会(30土)	第1回進路説明会(8金)	・定期考査対策とともに 受験勉強の計画も立てる
6月	定期考査 (9火, 18水, 19木)		・進路研究をする ・入試選抜方法をおおまかに理解する
7月	全体保護者会(15水) 終業式(17金)	進路希望調査① (3金メ切) ★実力テスト①	・家庭での話し合いを深める ・学習計画を確認、修正する ※今までの復習を夏休み中に終わらせる
	三者面談(21月 - 27月)	夏休み	
8月		学校見学、体験入学 説明会参加、職場見学 ↑各家庭で参加する	・見学や体験入学に積極的に参加する (私立高校では個別相談を行う) ※可能なら部活動見学などもする
9月	始業式(1火) 中間考査(17木, 18金) 修学旅行(30水 -)		・学習計画を確認、修正する ・苦手な問題にひたすら取り組む
10月	修学旅行 (-2金) 三者面談(19月 - 23月)	★実力テスト② 進路希望調査② (5月メ切) 第2回進路説明会(6火or13火)	・都立、私立の選抜方法を理解し、 志望校を決定する
11月	定期考査 (4水, 12木, 13金)	★実力テスト③ 受験写真撮影 ●スピーキングテスト(22日) 進路希望調査③ (25月メ切) 【志望校(私立)の最終確認】	・教科のまとめをし、弱点を克服する
12月	三者面談(1火 - 8木) 終業式(25木)	最終的な受験校(私立)の確定 推薦志願書・誓約書の提出 私立入試相談開始(15火) 私立願書準備、調査書作成願提出 個人面接演習、集団討論演習	・入試要項をよく読む ・書類の入手方法や作成方法を調べる ・自分の進路に応じた学習をする ・志望校の過去問題を解く ・面接練習や、模擬面接などを行う
1月	始業式(8金) 学年末考査3年生 (28木, 29金)	私立推薦願書・都立推薦願書提出 私立推薦入試 都立推薦入試 私立一般入試願書提出	・入試、発表、手続きの流れを確認し ミスのないように徹底する
2月	卒業遠足(26木)	都立一次・高専入試願書提出 私立一般入試、発表、手続き 都立高専入試、発表、手続き 都立一次入試、発表、手続き	・生活リズムを整え心身の健康を保つ ・受験の準備、心構えをする
3月	芙蓉祭 展示の部(5金 - 6土) 合唱の部(8月) 卒業式 (19金)	都立二次願書受付 都立二次入試、発表、手続き 定時制二次願書受付、入試、発表、手 続き	・新しい環境に進む心構えをする ・卒業式練習に真剣に取り組む

※進路関係の行事は、実施時期が変更になることがあります。

4. 中学校卒業後の進路先

A. 高等学校

課程

- 全日制課程 朝から午後までの日中に授業があります。
- 定時制課程 夜間、その他定められた時間帯に授業があります。
- 通信制課程 自宅等で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、定められた日に登校します。
(毎日登校して学習することを目的とする登校型を設置する学校もあります。)

学年制と単位制

- 学年制 学習する教科・科目が学年ごとに定められており、その学習成果が認められると単位が与えられ、次の学年に進級する制度です。全日制は3年、定時制は4年(一部は3年)を修了すると、卒業が認められます。
- 単位制 学年の区別がなく、3年間(または4年間)の中で必修(必履修)科目の他に自分に適した教科・科目を選択し、その学習成果が認められ、入学から卒業までに決められた単位数を修得すれば卒業できる制度です。

A-1. 都立高校

都立高等学校の学科

*令和9年度入試の要項はまだ発表されていません。

●普通科

国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の各教科を中心に学習します。各教科は、更にいくつかの科目に分かれています。学校が定めた教育内容に従い、定められた科目や自分で選択した科目を学習します。大学・短大・専門学校への進学や就職など、幅広い進路に対応します。

・普通科(コース制)

【深川高校(外国語)、片倉高校(造形美術)、松が谷高校(外国語)、小平高校(外国語)】

普通科の一部ですが、皆さんの興味・関心や希望に応じられるよう、学習内容の重点化を図り、様々な選択科目を設けています。1年次から語学系、美術系のコースに分かれて学習します。

●総合学科

普通科目、専門科目、職業科目を幅広く学習できる学科です。自由選択科目が多く設置されており、自分の進路や興味・関心に応じた自分だけの時間割を作ることができます。通常、情報系、外国語系、スポーツ系、商業系、工業系など複数の系列を設定し、自分の進路に合った系列の科目群を参考にして学習する科目を選択します。

●農業に関する学科

農業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、農業生産物の栽培や飼育を通し、自然に親しみながら専門的な知識やバイオテクノロジーなどの技術を身に付けます。

●工業に関する学科

工業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、専門的な知識やものづくり技術・ハイテク技術などを身に付けます。

・工業に関する学科(デュアルシステム科)

【葛西工科、六郷工科、多摩工科】

企業でものづくりの長期就業訓練を授業として受け、実践的な技術・技能を身に付けます。企業と生徒の合意により、卒業後、就業訓練先の企業に就職することもできます。

●科学技術科

【科学技術高校、多摩科学技術高校】

科学や技術について幅広く学び、卒業後、理系の大学等において専門性を高めるための基礎力を身に付けます。

●ビジネス科・商業科

経理、情報処理などの商業に関する分野や国際化に対応する分野で活躍できる人材の育成を目指して、専門的な知識や技術を身に付けます。

●ビジネスコミュニケーション科

【大田桜台高校、千早高校】

激変する社会環境の中で、自立することのできる人材の育成を目指します。英語や実践的なビジネス科目を学び、社会科学系及び人文科学系大学への進学を目指します。

●情報に関する学科

【新宿山吹高校】

高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てるため、情報の各分野に関する知識と技術を習得します。

●産業科

【橘高校、八王子桑志高校】

生産・流通・消費の各過程の関連性を学び、起業家精神を育成します。

●海洋国際科

【大島海洋国際高校】

海洋について様々な視点から学び、海洋課題に対応できる人材を育成します。

●家庭に関する学科

【赤羽北桜高校、農業高校、瑞穂農芸高校、忍岡高校】

家庭生活に関することを重点的に学び、衣食住、保育、看護や介護などの知識や技術を身に付けます。

●福祉に関する学科

【赤羽北桜高校、野津田高校】

各種福祉施設、病院、保育園などで実習や体験学習を行いながら、人間尊重の精神をしっかりと身に付け、社会の援助者として行動できる人材を育成します。

●理数に関する学科

【立川高校、科学技術高校】

理数系の幅広い知識と情報活用能力等を高いレベルで併せ持ち、新しい価値（イノベーション）を生み出すことのできる人材を育成します。

●芸術に関する学科

【総合芸術高校に、「音楽科」「美術科」「舞台表現科」を設置】

音楽、美術、舞台表現に関する専門科目の学習を行うことにより、感性と表現力を身に付け、将来にわたって芸術の発展に寄与する人物の育成を目指します。

●体育に関する学科

【駒場高校、野津田高校】

体育・スポーツに関する専門科目の学習を行い、保健体育に関する知識・技能を身に付けます。共通科目の他に、学校によりバレーボール、バスケットボール、サッカー、体操、陸上、水泳などの専攻に分かれた専門の学習を行います。

●国際に関する学科

【国際高校に、「国際学科」「国際バカロレアコース」を設置】

国際関係、日本の伝統文化、異文化理解などに関する学習や、自分が設定した課題を深く学ぶ課題研究型の学習を行います。また、外国語（英語など）の高度な運用能力を身に付けることを目指します。こうした学習を通して、豊かな国際感覚を身に付け、積極的に国際社会で行動できる人材を育成します。

「国際学科」では、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語及び韓国語などを学ぶことができます。

「国際バカロレアコース」は、海外の大学への進学を目指すためのコースです。

●併合科

【全日制では、大島高校(農林・家政)、三宅高校(農業・家政)、八丈高校(園芸・家政)】

【定時制では、瑞穂農芸高校(普通・農業)】

二つの学科を一つの学級に編制している学校もあります。これを、併合科としています。

多様なタイプの都立高校

●チャレンジスクール

【桐ヶ丘高校、世田谷泉高校、大江戸高校、六本木高校、稔ヶ丘高校、小台橋高校、立川緑高校】

小・中学校で不登校の経験があったり、高校で中途退学を経験したりして、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする学校です。自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて各時間帯（午前・午後・夜間の三部）を選んで入学する昼夜間の定時制・総合学科・単位制の高校です。4年間かけて学ぶことを基本としますが、科目の履修方法によっては3年間での卒業も可能です。

●エンカレッジスクール

【足立東高校、秋留台高校、練馬工科高校、蒲田高校、東村山高校、中野工科高校】

小・中学校で十分に能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援しながら、勉強や学校行事・部活動などを通して学校生活を充実させる全日制の学校です。1年次には30分授業を実施し、午前中は座学、午後は体験学習および選択授業が中心となるように時間割編成を工夫し、生徒の集中力を維持し、向上させます。また、少人数制・習熟度別授業によるきめ細かく分かる授業の実施や、豊富な体験学習や選択授業が特色です。

●昼夜間定時制高校

【一橋高校、浅草高校、荻窪高校、八王子拓真高校、新宿山吹高校、砂川高校】

自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、午前・午後・夜間の三つの部の中から選んで入学する定時制・単位制・三部制の普通科高校です。（新宿山吹高校は四部制で、情報科も設置）基礎・基本を重視し、習熟度別授業や少人数授業など、多様な学習形態を取り入れています。部によっては、1日4時限ずつ4年間かけて学ぶことが基本ですが、他の部と合わせて1日に6時限の授業を受けられるため、3年で卒業することもできます。

A-2. 私立高校

都立高校同様、いろいろな特色をもち、各校で建学の精神に基づいた独自の教育課程に沿った教育活動が行われているのが大きな特徴です。また、男女共学だけではなく、男子校や女子校があったり、大学の付属高校があったりと、選択肢の幅がとても広いことも特徴の一つです。

A-3. 国立高校

国立大学の付属校として設立されています。学校数も少なく、かなり高い倍率となります。

B. その他の学校

B-1. 高等専門学校（高専）

各分野の専門技術者を育成する学校です。修業年数は5年で、1年生で共通の授業を受けて、2年生～5年生でコースを選択します。専門科目の内容については、工業高校より高度なものになっています。さらに卒業後も勉強を続けたい場合は専攻科に進むか、4年生大学の3年生（一部大学では2年生）に編入も可能です。

※都立産業技術高等専門学校では、荒川キャンパスか品川キャンパスを選択できます。

都立だけではなく、国立・私立もあります。

B-2. 高等専修学校・各種学校

専門学校と同じ区分になり、1～3年間の修業年数の間に、さまざまな分野における専門技術や資格や受験資格を取得できる学校です。（電気・自動車・塗装・調理・美容・簿記会計・家政・服飾など）高等専修学校の中でも、修業年限が3年間の学校は大学入学資格付与校といって、4年制大学や短大、専門学校への受験が可能となる場合があります。

B-3. 通信制補習校（サポート校）

メインで通う学校への入学と同時に入学し、高校卒業資格取得までの3年間で独自のカリキュラムでバックアップしてくれる学校です。学費面ではメインで通う学校と通信制高校の両方の学費が必要です。

B-4. 特別支援学校高等部

特別な支援を必要とする生徒の自立や社会参加に向けた主体的な支援をする学校です。

B-5. 職業能力開発センター

就職に向けて、職業に必要な知識・技能を習得するために訓練する学校です。近い所では、「都立城東職業能力開発センター江戸川校」があります。

「B. その他の学校」は、受験の仕組みや日程、受験資格や卒業後の取得資格などが特殊な学校です。進学を希望する場合は、各家庭にて資料を取り寄せ、情報を確認してください。また、担任へ早めに受験の相談（第1回の三者面談にて）を行うようにしてください。

C. 就職

中学校卒業後就職を考えている人は、一足先に社会人になります。自分がどのような資質をもっているか、十分に分析しなくてはなりません。そして、職業に関する理解を深めたうえで、職業を選択し、就職することが望まれます。ここ数年は、中学校卒業後の求人は少なく、進学するよりも狭き門です。知り合いの人との口約束で就職し、あとになって労働条件や給料のことでトラブルになることもあります。知り合いの人に採用してもらう場合でも、学校に相談し、ハローワークに間に入ってもらうことが大切です。

●就職へのコース

1. 一般的な就職へのコース

入社と同時に仕事につき、働きながら徐々に仕事を覚えます。

2. 就職し、会社内の養成機関で学ぶコース

会社内に訓練機関を持つ事業所で仕事をしながら、一定期間訓練生として技術を習得します。

●採用の流れ

1. 求人情報の入手

近隣ではハローワーク木場を通して中学校に配布される「中学校求人一覧」から希望の事業所を見つける。

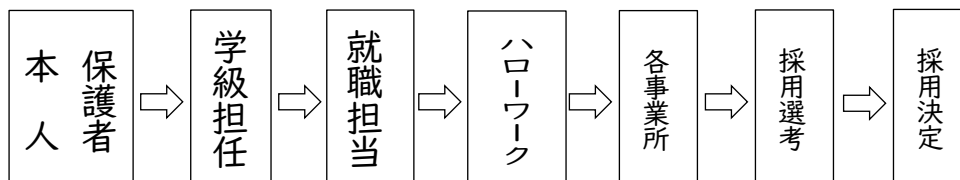
2. 応募書類の提出（12月中旬までに）

職業相談票（職業適性検査の結果を記入する）等

3. 採用選考開始（1月10日頃より）

選考は主に面接だが、適性診断テストや簡単な筆記試験を行うところもある。

4. 採用内定者の通知



5. 受験に関する基礎知識

内申点

中学校の成績（評定）を内申といい、調査書に記載されます。9教科の評定をそのまま足したもの（45点満点）を**素内申**と言います。推薦入試では、主に素内申を使います。

都立入試用に以下の計算式にあてはめて計算したもの(65点満点)を**換算内申**と言います。

（※芸術・体育科等一部の学校は、75点満点）

$$(\text{国}5 + \text{数}5 + \text{英}5 + \text{社}5 + \text{理}5) + (\text{音}5 + \text{美}5 + \text{体}5 + \text{技家}5) \times 2 = 65 \text{点満点}$$

【内申点（調査書点）を求めてみよう】

	国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保体	技家
2年 3学期									
合計	5科合計 (25点満点)					4科合計 (20点満点) × 2			
	↓					↓ × 2			
	+								

⇒ 内申点 点/65点満点

都立一般入試の場合は、当日の学力調査[700点満点]と内申点（調査書点）[300点満点]とESAT-J[20点満点]の合計[1020点満点]になります。

※学校により比重が異なり、学力調査[600点満点]と内申点[400点満点]になることもあります。

【都立用計算練習】

実力テストの結果	上記で計算した換算内申	英語スピーキングテスト
/500 × 700	/65 × 300	/20
↓	↓	↓
+		

⇒ 合計 点/1020点満点 ※端数切捨

偏差値

平均点を50としたときに、全体から見てどの位置にいるかという目安のことで、25から75までの間に99%が入ります。数字が大きくなるほど得点が高いということになります。学校で行う定期考査や実力テストなどではこの偏差値は出てきません。これは偏差値に偏った進学指導を行わないようにという全国的な流れです。しかし、全都の中学生の中で自分がどの位にいるかという目安になります。模試（会場テスト）などを経験し、資料として自分の実力を把握するのもよいでしょう。

都立推薦

推薦入試を受けるためには、各高校が出している「本校の期待する生徒の姿」に準ずることと、葛西第二中学校の推薦基準の両方をクリアすることが必要です。推薦を希望しても、葛西第二中学校の校長の推薦がなければ受験することはできません。学力だけではなく、学校生活がきちんと送れている（出欠席・遅刻、生活習慣、授業態度、生活態度、先生の指導に従うなど）ことが条件です。

- 《入試までの流れ》
- ①本人・保護者の推薦希望を確認（第一志望であることが前提）
 - ②校内推薦基準をクリア
 - ③校長の推薦を受ける
 - ④調査書などの作成（担任）
 - ⑤志願書・自己PRカードの作成（本人）
 - ⑥入試

私立推薦

都立推薦同様、両方の基準をクリアすることが必要です。私立高校では、推薦入試の出願資格として学校ごとに内申の基準を設けているので、事前に担任とよく相談しておく必要があります。

- 《入試までの流れ》
- ①本人・保護者の推薦希望を確認（第一志望であることが前提）
 - ②校内推薦基準をクリア
 - ③校長の推薦を受ける
 - ④各校の推薦基準を満たしていることの確認（中学校と受験校）
 - ⑤調査書などの作成（担任）
 - ⑥入試

私立併願優遇

第一志望の学校に不合格だった場合にその学校に進学することを約束することで、一般入試より優遇される制度です。第一志望に合格できなかった場合は、併願優遇を受けた高校に入学することが条件になります。高校ごとに内申の基準を定めていて、必ずこれをクリアしていなければなりません。

- 《入試までの流れ》
- ①本人・保護者の併願優遇希望を確認
 - ②各校の併願優遇基準を満たしていることの確認（中学校と受験校）
 - ③調査書などの作成（担任）
 - ④入試

※併願優遇の条件に、「中学校長の推薦を受けた者」や「人物に優れ、規則正しい生活を送ることが出来る者」などと記載されている入試に関しては、推薦入試同様の扱いとなります。したがって、校内推薦基準をクリアする必要があります。

都立一般入試・私立一般入試

推薦や優遇措置を受けずに受験することで、都立では一次（前期）と二次（後期）があります。私立では日程を何日か設けている学校もあるので、複数校受験することも可能です。ただし、入学手続きの締め切りが早い学校もあるので、志望順位によっては注意が必要です。

6. 推薦希望者にのぞまれること

都立高校の場合、高校ごとに「本校の期待する生徒の姿」という基準があります。また、私立高校の場合は、内申の細かい基準が示されます。都立、私立を通じて、主に次のことが求められます。

①学習面…学力を向上させようと努力していること。

- ・その学校で学ぼうとする意志がはっきりしている。
- ・学力がその学校の推薦基準に達している。
- ・毎時間の授業にまじめに取り組んでいる。
- ・課題や宿題にまじめに取り組んでいる。

②生活面…基本的な生活習慣が身についていること。

- ・出席状況（遅刻・欠席）が良好。
- ・学校のルールにそった生活ができる。（頭髪、服装、持ち物、チャイム着席、提出物など）
- ・日常生活を向上させようと努力している。
- ・正しい判断や行動ができる。
- ・集団の一員として、自覚をもって生活している。

③その他の活動面…積極的に集団に奉仕する気持ちがあり、責任感があること。

- ・生徒会、委員会、部活動、各学級の諸活動にまじめに取り組んでいる。
- ・集団をより良くするために、温かい配慮ができる。

上記の項目は特別なものではなく、学校生活を送る上で基本的かつ重要なことばかりです。したがって、推薦入試を受けるためにそれらしく振る舞うのではなく、受ける受けないにかかわらず、自分を成長させるために一つ一つ取り組んでほしいと考えています。

【参考】「本校の期待する生徒の姿」（抜粋）

江 戸 川	<p>本校では、「進学指導推進校」「Sport+Science Promotion Club」の指定を受け、進学指導及び部活動に重点を置き、充実した教育活動を展開しています。したがって、努力を惜みず高い志をもつ、以下の項目に該当する生徒を希望します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本校の特色をよく理解し、勉学、生徒会活動、部活動に積極的に取り組む生徒 2 日々の学習活動において努力を重ね、四年制大学への進学に向け、高い目標を掲げて努力する生徒 3 生徒会役員や委員会のリーダーとなり、自らすすんで生徒会活動や学校行事に積極的に取り組む生徒 4 中学校の部活動において優れた技能をもち、入学してからも継続して部活動に励む意志の強い生徒 5 社会や学校の決まりを守ることができる規範意識の高い生徒 <p>※ 特に推薦選抜においては、生徒会活動や委員会活動、部活動において優れた取り組み等があることが望ましい。</p>
紅 葉 川	<p>これからの時代をたくましく生き抜いていくためには、「国際社会に通用する確かな学力」が必要です。本校は、全日制普通科の使命として、生徒に確かな学力を身に付けさせ、大学に一般受験で合格させることができるよう、教職員が一丸となって指導を行います。この方針に共鳴する生徒の入学を期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学進学への目的意識をしっかりもち、高い志望を掲げて努力する生徒 2 国語・数学・英語・社会・理科の基礎学力があり、更に深く学ぼうとする生徒 3 学校生活の規律を守り、広く他人への配慮ができる生徒 4 部活動、学校行事、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒 <p>※ 特に推薦選抜においては、本校への志望動機が明確であり、入学後に勉学と部活動に意欲的に取り組む生徒が望ましい。</p>
葛 西 工 業	<p>本校では、機械科、電子科、建築科、デュアルシステム科のそれぞれの学習を通して、創造的なものづくりができるスペシャリスト（専門家）の育成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 機械、電子、建築の分野に興味・関心をもち、ものづくりの技術・技能を身に付けたい生徒 2 身に付けた技術・技能を将来に生かしたい生徒 3 資格取得・検定試験にチャレンジする生徒 4 積極的に企業での就業体験に参加する生徒 5 部活動や生徒会活動を3年間続ける意志があり、学校行事に積極的に取り組む意欲のある生徒 6 良好な人間関係をつくることのできる生徒 7 基本的な生活習慣が良好で、学校や社会のルールを守ることのできる生徒

本校の推薦等の受験基準

1. 推薦制度の利用について

(1) 都立、私立、国立を問わず多くの高校が「推薦入試」を実施しています。推薦入試は通常の一般入試より合格発表が1カ月ほど早く、主として調査書と面接によって合否が決定されます。

(学校によっては作文や小論文、集団討論などが行われます。学科によっては実技試験が行われます。)

この制度を利用して受験するためには、葛西第二中学校が定める基準と、志望校が定める基準をともに満たしてはなりません。さらに職員会議において全教職員からの承認を受け、最終的に学校長の判断で推薦受験できるかどうか決定されます。度重なる遅刻や校則違反などが無く、クラスメイトや教職員と協調し、健全な学校生活を送っていることが大前提となります。志望校が示す成績の基準を満たしているだけでは推薦受験は受けられません。

(2) 高等学校の募集要項に「中学校長の推薦を受けた者」や「人物に優れ、規律正しい学校生活を送ることができる者」などと記載されている入試につきましても、推薦入試と同様の扱いとなります。そのため、これらの入試を受験する場合においても、本校が定める推薦基準をすべて満たし、校内での承認を受ける必要があります。

2. 推薦基準について

以下に示す具体的な基準全て、もしくは(2)及び(3)に該当していることが推薦の条件です。また、特別推薦等についてもこの基準に準じます。

(1) 人物・学力ともに優れている。

(2) 志望の動機が明確であり、適性がある。

(3) 生徒の日常的な活動内容が、本校の推薦生徒として適している。

①志望校の推薦基準を満たしている生徒。

②生活面では、きまりを守り、集団の一員として責任ある行動ができる生徒。

当番活動や係活動にも責任をもって取り組んでいる生徒。

③学習面では、常に向上心を持って努力を続けている生徒。

チャイム着席を守り、授業に真剣に取り組み、提出物を期限内に提出している生徒。

④基本的な生活習慣が確立されており、欠席や遅刻が少なく、安定した学校生活を送っている生徒。

⑤学校生活および日常生活において、法や社会のルールを遵守し、健全な行動が認められる生徒。

また、過去の経験を糧として深く反省し、現在は前向きに努力を重ね、将来性が期待できる生徒。

3. 推薦等合格後について

推薦入試または同様の制度を利用して合格した後であっても、上記「2. 推薦基準」から著しく逸脱する行動が認められた場合には、合格が取り消されることがあります。

最後までこの制度を利用して合格者としての自覚をもち、責任ある学校生活を送るようにしてください。

8. 昨年度の葛西第二中学校進学状況

都立高校	全日制	61名	
	定時制・通信制	8名	
私立高校	都内	全日制	36名
	都外	全日制	4名
	都内外	通信制	8名
国立高校	0名		
その他	3名		
就職	0名		

9. 昨年度の入試の状況

◆都立 ここ数年で都立離れが進む

全日制都立高校の一般入試は、定員 30,439 名に対し 38,148 名が応募し、応募倍率は 1.29 倍でした。全体の平均倍率は 1.25 倍ですが、商業科は 0.90 倍、工業科は 0.78 倍となっており、専門学科は応募が少ない状況が続いています。ただし、墨田工科の自動車科など、学科によって倍率の出ているところもあります。

※実質倍率 普通科 1.30 倍 専門学科平均 1.12 倍 総合学科 1.18 倍

※受験倍率 = 受験者数 ÷ 募集定員数

※実質倍率 = 受験者数 ÷ 合格者数

◆チャレンジスクールは応募増

全日制的応募は大幅に減少しましたが、昼夜間定時制への応募は増加しています。学科試験を実施する普通科は減少しましたが、学科試験を行わない総合学科(チャレンジスクール)への応募は増加しています。

六本木高校 1.85 倍 大江戸高校 1.38 倍

◆推薦入試も減少

推薦入試の平均応募倍率は 2.05 倍でした。最近では私立高校へ志望が流れ、都立推薦への応募はやや減少気味でしたが、所得制限撤廃によりその流れが加速したようです。しかし、学校によっては依然として 3~4 倍となっているところもあります。また、小論文・作文で高難易度の出題がされる学校では、その対策に時間を割くことを避け、一般入試に全力を注ぐ生徒もいます。そのため応募が絞られ倍率が低くなっていますが、十分な対策をして臨んでいる生徒が多いようです。

◇私立 通信制高校への進学が増加

私立通信制高校への進学が増加している背景には、①学習時間や方法を自ら選択して自分のペースで学ぶことができる点 ②自分の学びたいことが学習できる点 ③将来役に立つ技能や資格を身に付けられる点 が考えられます。

◇私立 大学進学を視野にいた選択

大学付属校や進学指導に特化したコースがある学校への受験者が増加しています。その背景には、①大学入試制度の変更に対する不安、②大学受験への負担感軽減 が考えられます。しかし、このような学校は併願優遇の制度がないこともあり、例年多くの不合格者がでます。また、推薦入試でもテストを実施するため、合格は容易ではありません。

◇私立 一般入試でフリー受験は困難

一部の学校を除いて、ほとんどの学校で優遇制度を取り入れています。また、ほとんどの受験生がその制度を利用して入試に挑んでいます。そのため、優遇制度を利用しない受験(フリー受験)で合格することは大変難しくなっています。受験する可能性がある学校の説明会に必ず参加して、優遇制度を確認することが重要です。

◇参考資料 個別相談チェックシート

●前日までの準備

- 訪問や相談の予約
来場自由の場合もあるが、先着順や事前予約もあります。
- 通知表または通知表のコピー
3科、5科、9科の合計が基準を満たしているか確認するため
- 外部で受験した模試の個票
Vもぎ、Wもぎの個票
- 各校の事前情報（パンフレットや募集要項等）
できる限りHPなどチェックしておく
- 質問事項をメモしたもの
パンフレットや募集要項を見て、不明点を質問する
- 出願基準の加点項目に該当する書類
＜例＞3年間欠席なし → 1～3年の通知表のコピー
英検準2級 → 合格証書
スポーツ実績 → 賞状 など

●当日

- 出願書類一式（パンフレットや募集要項等）をもらう
早い時期だと貰えない場合がある
- 施設見学
＜例＞教室・トイレ・体育館・特別教室・自動販売機・学生食堂 など
- 在校生の様子を見る
＜例＞授業・部活動・登下校途中 など
- 事前に用意した質問をする

★相談時に必ず聞いておくこと

- 個別相談した担当者の名前
話の流れで無理がなければ「名刺」を貰っておくとよい
- 出願基準の加点項目について
何点認められるのか、該当項目は何なのか
- 可能な併願パターンはどれなのか
 - ①公立併願：都立（推薦・一般）との併願
 - ②私私併願：私立（推薦・一般）との併願
 - ③公私併願：併願優遇校が第三志望
- 第一志望校に合格した場合の対応
併願校への出願（＝受験料の振込）が必要か、延納できるか
- 成績が出願基準を満たしていない場合、認められる加点が他にあるか